

8. 見守りサービス

○困りごと

- ・主に夜間の高齢者など、患者の見守りが大変
- ・部屋の中で何かが起こった時（緊急の時）に、部屋の外にいると把握できない

○従来の方法

- ・患者が自分で通報する（ナースコールやブザー）・・・ウェアラブルセンサを常に持ち続けることは難しい
- ・巡回する、監視カメラで確認する・・・全部屋常に気を配るだけの人員を雇えない
- ・マットやベットにセンサを敷く・・・平常時の動作も誤って危険検知してしまう

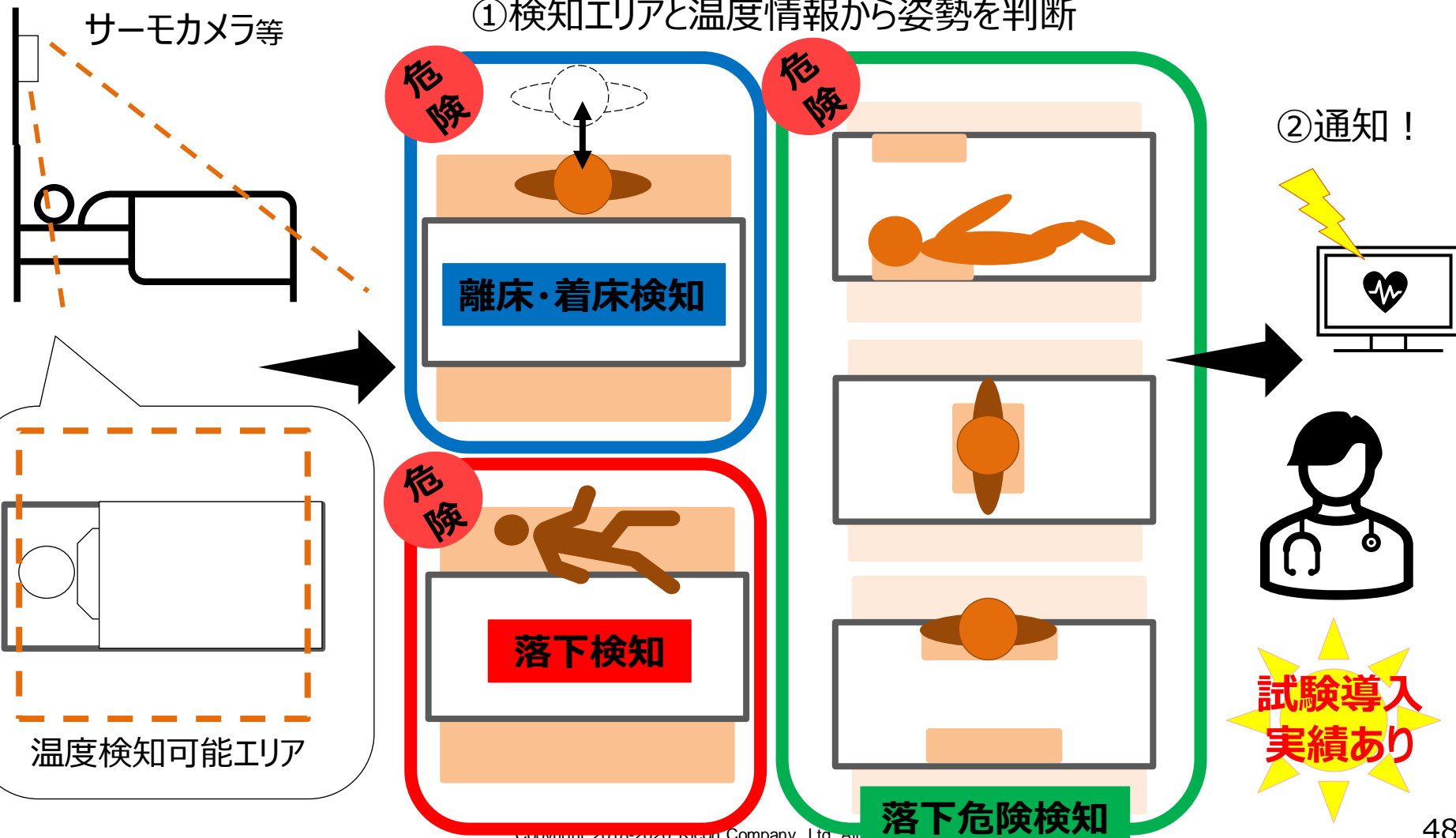
○この発明のメリット

- ・人体の温度情報を用いて判断することで、人物の状態（姿勢）を認識することができる
- ・カメラのような映像情報を記録しないので、患者さんのプライバシーにも配慮できる

8. 見守りサービス

サーモカメラを使った温度情報等から、入居者の状況を知れます！

① 検知エリアと温度情報から姿勢を判断





8. 見守りサービス

○想定される用途・利用シーン

■ 見守りサービス提供者

見守りシステムとして、自動通報できるシステムの開発

- ・老人ホーム・病院
- ・個人宅